



薩州家六代島津義虎

薩州島津家の世界

その栄華と衰亡

薩藩沿革地図 天正14年(複製)

開催にあたって

室町時代末期(戦国時代)、出水を統治していたのは薩州島津家と称された島津氏の分家にあたる一族でした。初代用久は島津家八代当主豊久の次男で、薩州家を起こして出水亀ヶ城に入りました。その後、七代忠辰に至るまで、およそ170年間薩州島津家は鹿児島の中で重要な位置にありました。

しかし七代忠辰の時代に、豊臣秀吉の勘気を得て家名断絶の処分を受け、薩州家は鹿児島の中から姿を消し、今ではその実態を十分確認できない存在となっています。

今回の特別展では、伊佐地区で発見された薩州家に関する資料などを展示することにより、薩州島津家の歴史を改めて見つめ直してみたいと思います。

展示を通じて、出水と薩州島津家との関わりを知る機会となれば幸いです。

- 会期:平成29年10月1日(日)~11月19日(日)
〔休館日:10月16日〕
- 会場:出水歴史民俗資料館(中央図書館2階)
- 入館時間:9:00~18:00(平日)
- 入館時間:9:00~17:00(土日祝)
- 入館料:無料

- 主な展示資料
:出水愛宕神社所蔵『三十六歌仙絵扁額』
伊佐市山野八幡神社所蔵『三十六歌仙絵扁額』
『島津忠辰記銘 棟札』
『相良長每肖像画(複製)』、薩州島津家年譜
『薩藩沿革地図(複製)』、関係中世山城写真

歴代薩州島津家当主



初代 用久 ?~1459
 1453 出水亀ヶ城に入る
 領地 出水、阿久根、野田、
 高尾野
 ※写真の右が用久、左は婦人の墓石

二代 国久 1441~1498(58歳)
 領地 出水4城のほか、加世田方面
 三代 重久 1464~1536(73歳)
 領地 出水4城のほか、加世田方面?
 四代 忠興 1486~1525(40歳)
 領地 出水のほかは不明
 五代 実久 1512~1553(42歳)
 領地 出水 鹿児島、南薩、日置
 六代 義虎 1536~1585(50歳)
 領地 出水 長島、山野、川内の一部
 七代 忠辰 1566(又は1553)~1593(28歳、又は41歳)
 領地 父義虎と同じ 後没収

島津本家と薩州島津家との対立

初代用久と宗家九代忠国

- ・ 忠国が家督を継いだ頃、国内は有力豪族たちが跋扈し、権力は不安定であった。
- ・ 忠国は、次弟の用久に鹿児島を譲り、「国一揆」への対応を委ねた。
- ・ 力を発揮する用久を追放し、宗家の権力回復を図る。

二代国久と宗家十一代忠昌



- ・ 当初、十代当主立久の後嗣と定められたが、忠昌が誕生したことで解消される。
- ・ 国久に味方する豪族たちが、忠昌に反旗を翻す。

【国久の拠点加世田別府城】 領地の一部を忠昌に献上降る。

五代実久と相州家忠良



- ・ 当初、十四代当主勝久の夫人は、実久の姉であり、国政を実久委ねた。
- ・ 実久が専横であるとして、夫人を離縁し、実久を遠ざけ相州家忠良の子 貴久を後嗣とし、対立が始まった。

【実久が敗北した紫原丘陵】 実久と相州家との権力争いは14年続き、結局実久は敗退し、出水に隠居となった。

島津本家に恭順した六代義虎



- ・ 薩州家にとって、島津宗家に従うこと以外選択の余地はなかった。
- ・ 東郷氏、天草氏、相良氏との戦いなど、島津家の領地確保に尽力した。

【義久から賜った山野城跡】

三十六歌仙絵扁額

中世の有力者たちには、自家の隆盛を祈願するため神社等に『三十六歌仙絵扁額』を奉納する習わしがあった。

現在、存在が確認されている絵扁額は、始良市帖佐新正八幡神社、出水市愛宕神社、同市威徳天神、同市箱崎八幡神社の4か所が知られていたが、近年伊佐市において新たな資料の存在が報告されている。



【右二 伊勢】

出水市愛宕神社所蔵絵扁額は、その裏面に天正5年 島津義虎と記されていることから、1577年薩州島津家第六代義虎が奉納したものであることがわかる。

讃(歌)は、当時薩摩を訪問した前関白近衛前久の手になるもの。現在、35枚を所蔵している。

愛宕神社は、薩州家の居城亀ヶ城の北東方向にあり、鬼門避けとして薩州家が建立したと伝えられている。

伊佐で見つかった三十六歌仙絵扁額

これまで県内には、4か所の神社に絵扁額が存在することが知られていたが、近年新たな絵扁額が伊佐市内にあることが報告された。

新たに見つかったのは、伊佐市大口山野石井に所在する八幡神社である。今回の資料は、いずれも画像は消滅しているものの、裏に記された銘書からおおよその由来が判別できる。

名義上の奉納者「大檀那」は薩摩守藤原朝臣義虎、奉納の時期は天正9年と記されている。

後年編纂された史書によると、義虎は、前年大口城の相良・菱刈軍攻めに貢献している。

義虎の支配が伊佐山野に及んでいたことが、資料的に窺えるものと言えるだろう。

天正9年は、相良氏が守る水俣城を島津方が攻めた年であり、義虎もその大将の一人であった。



島津忠辰記銘の棟札 2点

伊佐市大口山野石井の民家が所蔵する「棟札」である。墨書はだいぶ薄れているが、「大檀那島津薩摩守藤原朝臣忠辰」と読み取れる。また資料からの読み取りは困難であるが、『神社調べ』によると天正20年の奉納とされる。この年は改元され文禄元年であり、忠辰が朝鮮出兵を命じられ、改易になる年でもある。



【棟札の一部】

第1回歴史講座

日時:平成29年10月15日(日) 午後2時~
 場所:中央図書館研修室 講師:本館 脇岡隆夫
 演題「薩州島津家の栄華と衰亡」
 受講料:無料 申し込み:資料館または図書館